

『オリエンテーション民法』

(N.T.・法科大学院生・20代)

本書は、高校生でも学べるとのコンセプトのもと、司法試験受験生の多数が使用する『事例で学ぶ民法演習』の著者である松久先生が執筆者の1人として執筆なされた優れた入門書であった。本書が他の入門書と異なる点は、まず、文体をあえて敬体になっている点である。すると、LIVE 講義を受けているような感覚で、わかりやすく、サクサクと読み進めることができた。次は、事例を挙げると同時に条文まで記載されている点である。近時の書籍でも、事例を挙げて制度等の解説をしているものは多い。しかし、条文まで記載されているものは多くない。事例を解決するためには、まずは条文から、という原則を教わる。しかし、初学者や初学者とイメージできない人であっても、その原則を忘れ、事例を見ると同時に、判例や学説に飛びついてしまう。本書は、その原則を毎回気づかせてくれる。また、一般的に使われている意味とは異なる用語等については、脚注で説明されている点でも他の入門書とは異なる。

もちろん、入門書とはいえ、民法の個々の制度を理解することができる設計になっており、一通り学習を終えた者にとっても、復習に最適の書籍であった。

『法学教室』2019年6月号(No.465)掲載「Reader's Voice」より